

「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム 活動報告書」  
「コミュニケーションにおけるデザインの役割、およびイラストレータデモンストレーション」

報告者 小林 龍一(工学研究科 M2)

1. カテゴリー

学生自主活動

2. 活動日時、場所

2014年1月8日(水) 16:00-18:00

場所 機械系1号館 204号室

3. 企画者

小林龍一(工学研究科)

4. 参加者など

伊藤周史 先生

小林龍一(工学研究科)

松本恵子(理学研究科)

河村憲一(工学研究科)

鄭翌哲(工学研究科)

5. 活動目的

近年、非言語コミュニケーションが重視されるようになってきており、コミュニケーションにおける話し手の印象は話す内容以外に大きく左右されるということは世間での共通認識となりつつある。それと同様に、視覚的コミュニケーション(文書、ポスター、スライドなど)においても受け手の印象は内容以外、つまりデザインに大きく左右される。しかし、多くの人はそのデザインに対して無頓着であり、不適切な印象を与えるという事態を容易に引き起こしてしまっている。本活動ではデザインの役割について理解し、制御する感覚を身に付けるとともに、ポスターやスライドのデザインを容易にするソフトウェアであるイラストレータの概要および使用方法について学ぶことを目的とした。

## 6. 活動概要

本活動では、我々が接する世界においてデザインがどのような役割を果たしており、我々はそれをどう利用すべきか学んだ。例としてフォントでは字体、線の太さ、行間、大きさなどが受け手の印象を左右するため、良く見かける太字表現やフォント使い分け変更も原理を知らなければ見当違いな印象を与えてしまう可能性がある。このことから、適切な印象を与えるためにはこれらの印象を構成する原理、そしてその応用方法を知る必要があることを学んだ。

またイラストレータの利用方法について知るとともに、イラストレータ初心者が陥りやすい心理状況について解説し、デザイン作成プロセスにイラストレータを活用する要領について学んだ。

## 7. 特記事項・添付資料など

特になし